

令和2年度 施策評価シート

■第5次粕屋町総合計画の体系

まちづくりの目標 (施策の大綱)	基本目標3 誰もが安心して幸せに暮らせるやすらぎのまち			
	3 高齢者が元気に暮らせるまちづくり			
施策名	(2) 住み慣れた地域での生活を支える支援の充実			
施策コード	3-3-2	施策構成	5 事務事業	決算額 212,205 (千円)

■目標／指標の達成度

基本計画に掲げる目標／指標			単位
①	実感指標	高齢者に対する支援が充実していると思う町民の割合	%
②	客観指標	介護予防サポーター数(介護福祉課)	人
③	客観指標	介護認定率(介護福祉課)	%
④			

アウトカム／成果目標の進行管理										
	当初値	28年度末	29年度末	30年度末	元年度末	2年度末	目標値	達成度	変更目標値	変更年度
①	18.5	23.6	28.3	23.9	28.3	—	↗	—		
②	23	43	107	102	109	99	150	60%		
③	14.6	13.03	13.95	14.56	15.12	15.35	15.1	100%		
④										

■施策における総括

前年度までの課題	サポーター養成講座の受講者が減少している。利用希望者がいてもサポーターがおらずマッチングができないケースがあった。また、認知症の担当者(会計年度任用職員)が退職により固定できず、認知症に対する見守り体制の充実や認知症の啓発事業を強化が目標であったが入れ替わりが激しくできていない。
今年度の取り組み(成果、効果)	認知症高齢者等行方不明SOSネットワーク事業及び認知症高齢者等個人賠償責任保険事業は、在宅の者が対象であるため、登録者数が一定数となり横ばいとなっていると考えられる。(認知症が重度になると施設入所するケースが多いため)成年後見制度の申立てに関する支援件数はやや増加傾向にあり、職員教育に関しても力を入れていく必要がある。地域包括支援センターにおける介護予防教室やサポーター養成講座は、新型コロナによる影響で、事業を縮小せざるを得なかった。 新型コロナウイルス感染症に係る経済対策としてシニア世代応援事業を実施した。
次年度以降に改善すべき課題	一人暮らし高齢者が地域から孤立することなく、住み慣れた環境で安心して暮らせるような支援体制を構築する。認知症については、認知症に特化したサポートチームのチームオレンジの立ち上げ、成年後見制度については、利用の促進に向け、中核機関の設置を国より求められている。今後の新型コロナの感染拡大状況によっては介護予防教室などの事業が中止になることが予想されるため、普段の生活の中で実施できる運動など介護予防の啓発を行う必要がある。地域包括支援センターに必須である主任ケアマネジャやその他専門職の欠員がないように雇用条件など関係課と協議する必要がある。

■総合計画の進行管理

(1) 施策実現への取り組み		(2) 施策実現への進捗状況	
	①着実に取り組まれており評価できる。		①計画以上に進んでいる。
○	②取り組まれているが、まだ改善の余地がある。		②計画どおり順調に進んでいる。
	③取り組みが不十分であり対策が必要である。	○	③進んではいるが、スピードが遅い。
	④取り組みがなされていない。		④進捗が見られない、または後退している。